f. **esorediosa** Kurokawa f. nov.

A. hypoleuca var. *fulvescens* Vain. in Philip. Journ. Sci. Bot. **8**: 106 (1913).

Thallus sorediis et isidiis destitutus, subtus partim fulvescens vel diltue flavescens.

Spec. exam. Formosa (Leg. M. Ogata, Ad corticem arborum, fertilis. Typus in Herb. Y. Asahinae). Japonia: Ins. Yakushima (Leg. F. Fujikawa). Java: Prov. Batavia (V. Schiffner, Iter Indicum no. 2872 et 3341). Distr. Japonia (Ins. Yakushima), Formosa, Philippina et Java.

○ユキツバキとヒメアオキ鳥取県下にも産す（林　弥栄）　Yasaka HAYASHI: *Camellia rusticana* Honda and *Aucuba japonica* Thunb. var. *borealis* Miyabe et Kudo, found in Tottori Prefecture.

ユキツバキは岩手，秋田，山形，宮城，福島，新潟，群馬，長野，富山，岐阜，石川，福井の諸県下に分布することは知られていたが，それより西はどこまで分布しているかよく判明しなかつた。筆者は昭和 29 年 11 月 2 日鳥取県東伯郡三徳林俵原地方にアスナロの天然林を調査に行つた節，附近海抜 500—600 m のブナ林下などにユキツバキがチャボガヤ，ハイイヌガヤ，ヒメモチ，ハイイヌツゲ，エゾユズリハ，ヒメアオキ，などの日本海側の多雪地方に多く見られる植物と混じて沢山生えているのを発見した。これより西にも分布しているものと思われるが，今度は別の調査目的があつたので，その分布を追いかけて見るひまがなかつたのは残念であつた。つぎにヒメアオキは北海道，本州の奥羽，北陸，山陰に分布することになつているが，山陰地方の分布は明らかでなかつた。本田正次博士が鳥取市摩尻寺で生駒義博氏が採集した葉の広い型のものにヒロハノアオキ (var. *brachyphylla* Honda, 原博士が f. *brachyphylla* (Honda) Hara) と命名されたものがあるが原標本を見せて戴いたが，これはヒメアオキの広葉型のものである。また中井博士が新潟県産のものにキッコウチャボアオキ (var. *latifolia* Nakai) と名付けられているものが科学博物館の標本中にあがるれこは葉がキッコウ型で広く大きなもので，前記本田博士命名のものと近似のものである。その外中井博士がやはり新潟県下産のものにナガバチャボアオキ (f. *angustifolia* Nakai) と名付けられたものが科学博物館標本中にあるがこれはヒメアオキの狭葉品である。この地には上記の両型にぴつたりはまる型のものやその中間型のものが生じていた。このヒメアオキもユキツバキと同様もつと西方まで分布しているものと思われる。因に同一地に生じているチャボガヤ，ハイイヌガヤ，エゾユズリハなどはるかに西方の山口県滑山まで分布している。
(農林省林業試験場)